

まつだいらただなお  
松平忠直は  
本当に「暴君」  
だったのか



松平忠直肖像（浄土寺蔵 画像提供：大分市歴史資料館）

したといえます。その後、忠直の軍は見事、真田軍を討ち破るという大功をたて、また、大坂城一番乗りを果たすなど、諸大名の中でもその活躍は抜きんでていました。

徳川家康も忠直の活躍を絶賛。恩賞が期待されました。しかし、領地の加増などもなく「参議従三位」という位を授かるだけで、忠直は不満を募らせます。その後、忠直は次第に酒色にふけり、妊婦の腹を裂くといった乱行に及んだともいわれ、また、参勤の途中に無断で国許へ帰るなどしたと伝承され、「暴君」として知られることになったといわれています。

の配流が決まった時には、鳥羽野の人々は忠直への恩義に報いるべく、一致団結して現在の長久寺(鯖江市)の本堂をわずか二十数日で建立。忠直は、豊後へ向かう際、寺に立ち寄り「ここを在所(生まれ故郷)とする」と宣言し、さらに「住職が托鉢に回ったら協力してほしい」と言い残し、鳥羽野を思う忠直の思いに人々は感動したと伝わっています。

「暴君」としての逸話が残っていますが、これらは創作だったのではないかとの見解も広がっています。彼は果たして本当に「暴君」だったのでしょうか。鳥羽野を開き、その土地を思う姿はまさに「名君」だったのではないのでしょうか。

関連史料・ゆかりの地  
忠直御墓所



やまもりすけざえもんまつだいらただなお  
鳥羽野の山森助左衛門は松平忠直の死の知らせを聞き、九州の廟所から土を持ち帰り、長久寺内に墓を建てました。現在は、鯖江市の指定文化財となっています。

【住所】 鯖江市神明町4-1-7 (福井鉄道鳥羽中駅より徒歩3分)

**福** 井藩祖・結城秀康の子で、大坂夏の陣では真田信繁の軍を打ち破ったことで知られる松平忠直。武勇に秀でた忠直ですが、一方で、「暴君」としての逸話も伝えられています。彼は本当に「暴君」だったのでしょうか。

文禄4(1595)年、松平忠直は摂州国(現在の大阪府)で結城秀康の長男として誕生しました。父に連れられて後の二代将軍・徳川秀忠を訪ねた際、秀忠は忠直(当時は長吉丸)を気に入り、忠直はその後しばらく秀忠のもとで過ごしています。

た。慶長12(1607)年に秀康が病死すると、越前国68万石を相続し、13歳で二代目福井藩主となります。忠直は生来、武勇に優れていますが、その度胸もまた並ならぬものだったと伝わっています。慶長20(1615)年の大坂夏の陣で、忠直の軍は真田軍攻略を命じられます。兵士たちが怖気づく中、忠直は立ったまま湯漬飯を食べ、「ます、腹いっぱい食べるのだ。そうすれば、地獄に落ちてでも、一番つらいと言われている餓鬼道には陥らずに済むからな」と諭し、その平然とした態度に兵士たちも落ち着きを取り戻

そんな「暴君」としてのエピソードが伝わる忠直ですが、一方で、彼は現在にも残る大きな功績を残しています。父秀康から引き継いだ鳥羽野(現在の鯖江市)の開拓です。当時、鳥羽野は原野に近い状態でも木々が立ち込み、昼でも薄暗く、人々からも恐れられていました。これに対し忠直は、ここに新たに家作する者に屋敷地を無償で与え、租税や使役を免除。この大胆な施策に人々は入植をはじめ、一帯には250軒ほどの民家や商家が建ち並んだといえます。元和9(1623)年、忠直が隠居の身となり豊後(大分県)へ